

生体牛の評価の試行結果(メキシコ)【暫定版】

生体牛リスクの総括(メキシコ)

<侵入リスク>

	1986-1990	1991-1995	1996-2000 [※]	2001-2005	2006-
生体牛	不明	不明	非常に低い	非常に低い	無視できる
肉骨粉	不明	不明	無視できる	非常に低い	無視できる
全体	不明	不明	非常に低い	低い	無視できる

※1996-2000の期間は、2000年のみのデータ

<暴露・増幅リスク>

暴露・増幅リスク	中程度	低い
1986	2000	2007

<サーベイランスによる検証等>

1996年末からパッシブサーベイランス、2004年からアクティブサーベイランスを開始。
30ヵ月齢を超える、BSEが疑われる牛、緊急と畜牛、原因不明の農場死亡牛、通常と畜牛等がサーベイランス対象となっている。
1994年より、BSE認知プログラムが存在している。

母集団数(2005年) 合計約3099万頭 (肉用牛約2879万頭、乳用牛約220万頭)

サーベイランスの成績(直近3年間)					
年次	通常と畜牛	死亡牛	不慮の事故による と畜牛	臨床的に疑われる牛	合計
2005	2,008	98	1,307	103	3,516
2006	1,594	171	1,614	52	3,431
2007	7,933	769	7,336	675	16,713

生体牛の侵入リスク(メキシコ)

			1986-1990	1991-1995	1996-2000 ^{※1}	2001-2005	2006-	合計
			輸入頭数	輸入頭数	輸入頭数	輸入頭数	輸入頭数	輸入頭数
輸入実績	英国	回答書						
		貿易統計						
	欧州(中程度汚染国)	回答書						
		貿易統計		(13.6トン)	823			823
	欧州(低汚染国)	回答書						
		貿易統計						
	米国	回答書			174,879	366,662	4,674	546,215
		貿易統計		221,257	738,695	505,142	14,506	1,479,600
	カナダ	回答書			15,232	22,539		37,771
		貿易統計	11,365	24,125	5,206	713		41,409
その他()	回答書							
	貿易統計							
合計	回答書	データ無し	データ無し	190,111	389,201	4,674	583,986	
	貿易統計	11,365	245,382	744,724	505,855	14,506	1,521,832	

		1986-1990		1991-1995		1996-2000 ^{※1}		2001-2005		2006-		合計	
		頭数	英国換算	頭数	英国換算	頭数	英国換算	頭数	英国換算	頭数	英国換算	頭数	英国換算
暴露要因となった可能性のある輸入牛 ^{※2}	英国												
	欧州(中程度汚染国)												
	欧州(低汚染国)												
	米国					174,879	3.50	366,662	7.33	4,674	0.09	546,215	10.92
	カナダ					15,232	1.52	22,539	2.25			37,771	3.78
	その他()												
	合計		データ無し		データ無し		190,111	5.02	389,201	9.59	4,674	0.09	583,986
		不明		不明		非常に低い		非常に低い		無視できる			

※1) 1996-2000年の期間は、2000年だけのデータ(貿易統計については、1996-2000年のデータ)

※2) 輸入品は、主として「管理されたリスク国」として分類されている米国とカナダから来ることから、回答書では暴露要因となった可能性のある輸入牛は無いとされているが、判定には輸入実績の数値を使用した。

注) 輸入実績及び暴露要因となった可能性のある輸入牛については、加重係数を設定した期間の輸入頭数のみを記載している。

肉骨粉の侵入リスク(メキシコ)

			1986-1990	1991-1995	1996-2000 ^{※1}	2001-2005	2006-	合計
			輸入トン数	輸入トン数	輸入トン数	輸入トン数	輸入トン数	輸入トン数
輸入実績	英国	回答書						
		貿易統計				18		18
	欧州(中程度汚染国)	回答書				6	1	7
		貿易統計				135		135
	欧州(低汚染国)	回答書			66			66
		貿易統計						
	米国	回答書			99,632	261,712	191,619	552,963
		貿易統計		200,844	428,453	377,216	237,820	1,244,333
	カナダ	回答書						
		貿易統計						
その他()	回答書							
	貿易統計							
合計	回答書	データ無し	データ無し	99,698	261,718	191,620	553,036	
	貿易統計	0	200,844	428,453	377,369	237,820	1,244,486	

		1986-1990		1991-1995		1996-2000 ^{※1}		2001-2005		2006-		合計	
		トン数	英国換算	トン数	英国換算	トン数	英国換算	トン数	英国換算	トン数	英国換算	トン数	英国換算
暴露要因となった可能性のあるMBM ^{※2}	英国												
	欧州(中程度汚染国)							6	0.06	1	0.00	7	0.06
	欧州(低汚染国)					66	0.66					66	0.66
	米国					99,632	1.99	261,712	5.23	191,619	3.83	552,963	11.06
	カナダ												
	その他()												
	合計		データ無し	データ無し	データ無し	データ無し	99,698	2.65	261,718	5.29	191,620	3.83	553,036
		不明	不明	不明	不明	無視できる		非常に低い		無視できる			

※1) 1996-2000年の期間は、2000年だけのデータ(貿易統計については1996-2000年のデータ)

※2) 輸入品は、主として「管理されたリスク国」として分類されている米国とカナダから来ることから、回答書では、暴露要因となった可能性のあるMBMは無いとされているが、判定には輸入実績の数値を使用した。

注) 輸入実績及び暴露要因となった可能性のあるMBMについては、加重係数を設定した期間の輸入トン数のみを記載している。

生体牛の暴露・増幅リスク（メキシコ）

○飼料給与

2000年：反すう動物由来肉骨粉の反すう動物への給与禁止

○SRMの利用実態

SRMは、ヒトの食用に利用されている。ヒトの消費に不適切な肉は焼却される。
農場での死亡牛は埋却され、と畜場での瀕死牛・歩行困難牛は焼却される。

○レンダリングの条件

メキシコ公式規格によると、「30分間、最低80°Cの温度で処理しなければならない」とされている。

○交差汚染防止対策

農場では、同じ敷地内で牛と豚・鶏を飼育しているところもあり、交差汚染の可能性は否定できない。
飼料製造業者は、動物用飼料の個別の製造ラインの管理や、品質管理、清浄度管理を実施し、これにより交差汚染を防止している。
ただし、混合施設における交差汚染防止対策に関するデータはなし。

<暴露・増幅リスク>

	飼料給与の状況	SRMの利用実態、レンダリングの条件、交差汚染防止対策	判定
1986-1999年	特に規制無し		中程度
2000-2007年	反すう動物由来MBM→反すう動物の給与禁止	<ul style="list-style-type: none"> ・SRMは飼料以外の用途に利用（飼料には利用されない） ・農場での死亡牛は埋却 ・と畜場での瀕死牛・歩行困難牛は焼却 	低い